



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

『未来への保残木』
 通年コース第六・七回開催報告「間伐、集材」

開催の数日前から急に朝晩の気温が下がり始め、一日目の昼間は、吹く風も涼しげななかでの間伐。伐木造材の時のチェーンソーの使い方や受け口・つる・追い口を思い出

しながらの作業となりました。二日目は小雨の降るあいにくの天候の中、簡単便利なひっぱりだこによる集材を行いました。六十年生時になった時、何



立ち位置を崩さず



隙間の動向

本がどのような間隔で残っているかを想定して、今の手入れをする。例えばその時の相対幹距比を十七と決める。現状の林分の林齢と上層樹高を測り、地位指数曲線図で六十年生時の樹高を予測する。ヘクター当たりの保残木数を割り出し、将来へ残す木を選ぶ。今回お借りした新山のヒノキ林では、林齢がおよそ四

十五年、上層樹高が十七メートルくらいなので、十五年後には樹高が十九メートル、ヘクター当たりの保残木は、約九百六十本。マークしなかった木を全て伐るわけではない。選んだ木と競合している木を伐る。マークがなく残る木もある保残木マーク法の特徴を理解していただけたでしょうか。

そして、伐った木は集める。出して使いたい。造材は曲がりをよく見て、柱材。払った枝葉は林床に散りばめて。滑らかな幹になった丸太を一本一本丁寧に、保残木を傷つけないよう、滑車をうまく



角度をつけるために

く使いながら、集材。赤い木寄せキャップに載せて集めると、切り株や灌木など多少の障害物は避けてくれる。考えながら体を動かす難しさと楽しさの同居した二連の作業となりました。

通年コース 第六・七回
 8月22日(金)
 間伐

8時30分 島崎先生の山小屋集合。ミズホ鋼機さんが山道用具を持ってきてくれました。
 8時40分 島崎先生挨拶。間伐の考え方や森林所有形態の現状と手入れの遅れに関するお話。
 8時50分 早川講師の挨拶の後、班分け。

9時10分 新山の現場へ向けて出発。
 9時50分 現場着。簡単なプロット調査をするための機材の準備。
 10時 島崎先生の保残木マーク法講義。導入した経緯や考え方、保残木の選び方などの講義に加え、林分密度判定図の見方をそれが印刷された手ぬぐいを使って説明していただく。

10時50分 各班で簡易プロット調査。方形のプロットを巻尺で設置し、その中の立木本数を数える。上層と思われ、かつ伐つてもよさそうな木をイントラが一本選び伐倒。その木の樹高を計って、切り株で林齢を数える。ヘクター当たり本数を計算し、上層樹高から現



復習をかねて

11時30分
目線の高さで林内を見回すと樹と樹の距離は充分ではないかと思う林も、林床を見れば草本や灌木もなく地表面があらわで、梢を見上げてみれば空は見えず、枝葉の重なりが目立つ。そんな現状はやはり少し混んでいるSr16相当。将来に残す保残木をマーク

12時
現場で昼食。
13時
間伐開始。各班ともにロープやチルホールを使った牽引伐倒となりました。牽引の合図を決めたら、まず伐倒方向を選ぶ。牽引担当の方がロープや滑車の準備をしているあいだに退避路を確保する。受け口を一連の動きで水平と斜めに伐り、周辺を確認してから追い口を。充分退避して



木寄せキャップに乗せて

14時
現場にて昼食。
15時
作業再開。平林班が集材。集める材との角度をつけるため、本体を設置した木にワンタッチラダーを一本かけて、その上部に滑車を付け、ワイヤーを引き回し、集材。藤原班と大野班は間伐を継続。
16時45分
作業を終了し、小屋へ戻る。
17時20分
島崎先生・早川講師の講評後、一応解散。暑気払いの開始まで、お風呂は如何ですか。
18時30分
暑気払い開始。恒例のパーベキューで一杯。

8月23日(土)
集材
8時30分
島崎先生の山小屋集合。日程説明のあと、島崎先生と早川講師の挨拶。小雨が降っていて、天気予報も雨ながら、現場作業をすることし、早速、身支度をして昨日の現場へ。
9時30分
現場着。各班交代で間伐とひっぱりだこ集材をすることに。まずは藤原班が集材。昨日伐倒した木の枝払

11時
作業を交代し、今度は大野班が集材。ほぼ全幹での丸太集材を実施。保残木を傷めないように、うまく滑車を利用して。藤原班と平林班は間伐。
12時10分
現場にて昼食。
13時
作業再開。平林班が集材。集める材との角度をつけるため、本体を設置した木にワンタッチラダーを一本かけて、その上部に滑車を付け、ワイヤーを引き回し、集材。藤原班と大野班は間伐を継続。
14時40分
作業を終了し、小屋へ。
15時40分
チェインソーメンテナンス。コンプレッサーで綺麗に掃除。30度・水平・一方通行・同じ回数でソー

い。造材を行った後、カラマツ林の方向へ、ひっぱりだこ集材。赤い木寄せキャップに丸太を載せて集めていく。大野班と平林班は間伐を進める。
11時
作業を交代し、今度は大野班が集材。ほぼ全幹での丸太集材を実施。保残木を傷めないように、うまく滑車を利用して。藤原班と平林班は間伐。
12時10分
現場にて昼食。
13時
作業再開。平林班が集材。集める材との角度をつけるため、本体を設置した木にワンタッチラダーを一本かけて、その上部に滑車を付け、ワイヤーを引き回し、集材。藤原班と大野班は間伐を継続。
14時40分
作業を終了し、小屋へ。
15時40分
チェインソーメンテナンス。コンプレッサーで綺麗に掃除。30度・水平・一方通行・同じ回数でソー



角度を決めて水平に

16時30分
チェインの目立て。
16時50分
島崎先生からひっぱりだこの牽引力・ワイヤーの強度、丸太材積と重量の説明を受け、
16時50分
島崎先生と早川講師の総括。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。
参加者/北沢さん、北原さん、小林さん、白鳥さん、千田さん、高玉さん、鷹野さん、平床さん、舟山さん、北條さん、山崎(真)さん、山崎(欽)さん、田村さん、東村さん、水野さん、熊木さん、園田さん
講師/島崎先生、早川講師
スタッフ/大野、平林、藤原、坂野

次回以降の予定

第八・九回
9月19・20日(金・土)
間伐・集材

間伐・集材の第二回目。前回の新山のヒノキ林を現場に予定しています。

一日目は、間伐をじっくりと。二日目は、間伐の続きと「キャタトラ」という林内作業車を使った集材を二班一組で行う予定です。

両日ともに集合は、8時30分、島崎先生の山小屋です。マイ装備・マイ道具、ご持参下さい。

専門コース第三回

10月2日、4日

(木・土)

早いもので、専門コースは今年度最後の開催となります。初日に伐倒方向・退避路確保・伐倒時の立ち位置などの復習をして、より安全・確実な伐倒、丁寧な枝払い、重心を見極めた造材を。二日目は降は傾斜地での伐倒や牽引伐倒を予定しています。

三日間とも、8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。



リレー通信

感動が
次へ進むエネルギー
平床 節子

信州、軽井沢、日本アルプス、八ヶ岳連峰 高山植物、ライチョウ…。生まれ育って四十年、長野県とは全く縁もゆかりもなく、時折テレビ番組で紹介される映像に「ふうん、こがん景色もあるとねえ」とたいして憧れを抱くこともなく、どちらかといえば「こがん寒か所住めねえ」なんて思いながら、日本の西の端、基地と観光の街長崎県佐世保市でつい三年前まで過ごしておりました。皆様こんにちは。北京オリンピック出場選手たちの美しい涙にもらい泣きしている平床節子です。九州女の私が南信州、そしてKOA森林塾へなぜ？



木村へ一年間派遣されました。その活動期間に同期協力隊員の派遣地、阿智村と栄村を訪問し、長野県を初体験。三千メートル級の山々が連なりそれらに挟まれた河岸段丘、常緑照葉樹でない森林、そして何より、ほんの降り始めの雨や豊かな木々に隠れた沢や田畑に注ぎ込む水が鼻をくすぐるのを感じとれて、薪をくべる香りやカーブの先にある製材所の香りをいち早く嗅ぎつけることが出来るこの澄んだ乾いた空気が素晴らしい。どんな素敵な映像を見るより、肌をなでる風や次々と目に飛び込む大パノラマを五感で感じ取った感動は、私の人生のあり方を大きく変えてしまいました。そしてとうとう、「毎日この景色を見て暮したか！」と任期終了後、去年四月、なぜかアルプスの見えない清内路村へ、また思わぬつながらりから移り住んできました。

「日本の林業は、森林は、どがんなつとるとやろう？」と、退職を機にワーキングホリデーで初めて森林に入り、手鋸で間伐を体験しました。現役を退き、家族を、畑や山を黙って見守るちいさなおじいさんがいざ棚田の修理へ。そして山へ入る軽い足取り、無駄のない身のこなし。里山の生活で身にしみ込んだ多職職人の仕事に感動したのです。そして、森林活動を期待して参加した緑のふるさと協力隊では、森林組合に受け入れてもらえず、ある作業班のご厚意で内緒で三回間伐のお手伝いをさせてもらいました。そこでは、山師は人との信頼が一番大切、どこの誰ともわからない人間とは危険と隣り合わせの仕事はできないものだと教わり、考えの甘さを痛感しました。と同時に、閉鎖的な旧態依然とした組織なんだとも思いました。

それでも、自然の循環が美しく保たれ人が生き物がそれぞれに共存できる森。木を生活の糧として利用できる森。その仕組みを作り上げるために役立つ人間となり、仕事にしたい、社会に貢献したいという憧れと理想を現実に引き寄せるためにKOA森林塾に飛び込みました。何かを、きつかけをつかみたいという思いです。幸い、島崎洋路先生という皆さんが師と仰ぐ方の山小屋が前身の塾とのこと。たくさん感動をして次に繋げるエネルギーを得ることが出来ることでしよう。また、これまでボランティア仲間では常に最高齢でどこか物足りなさを感じていましたが、この塾では人生の先輩方に恵まれていることも幸運です。交流会などを通じて、人の奥深さを感じたいと期待しています。

さて、私はあまり人と群れない生来の不器用な性格で、私が生まれ育ったのは、自然豊かな山々に囲まれた山形の田舎町です。家のすぐ裏手を川が流れていて、夏のこの時期は真っ黒になって毎日友達や近所の子ども達と川遊びをしたり、魚を追いかけたりしていました。山の頂に社のある裏山にもよく登りまわりました。友達と一緒に駆け上がって駆け下りる競争になっていました。よく怪我をしながらとりの時は途中の見晴らしの

リレー通信
巡り合わせ
舟山 諭





良い場所で休憩しながらボーッと景色を眺めていたのを覚えています。

実家は農家で林業も少しやっています。春は田植えと山菜採り、夏は杉苗の世話、秋は稲刈りと栗拾い、冬は雪降ろし、そんな手伝いをよくやらされていました。農繁期は休日が手伝いで終わってしまつこともありました。実家が林業をやっていた事もありません。朝早くからの仕事で結構きつかったです。でもまだまだです。日々勉強中です。

上京して十数年間は自然をあまり意識することもなく季節の移り変わりもあまり感じることのない生活をしていました。三十歳を過ぎて、緑あつて樹木にかかわる仕事をすることにしました。手甲に皮手袋、地下足袋をはいて腰物をつけて働くことになるとは思ひもなかった。巡り合わせの不思議さを感じ

ましたし幸運だなと思ひました。夏の暑さや冬の寒さが辛いこともありますが、都会の中で自然に接しながら季節の移り変わりを感じ、お天道様の下で汗を流すこの気持ち

この仕事をするようになってまず植生の違いを感じました。実家の周辺は落葉樹がほとんどで針葉樹も杉と松くらいしかありませんでしたがこちらでは落葉樹もあり常緑樹や針葉樹が結構多くありました。最初は樹木の名前があまりわからずこんな知らなかつたのかとショックでしたが、最近は何となく樹木ぐらゐは少しわかるようになりました。でもまだまだです。

この夏帰省した時、山に多くの枯れ木があるのを目にしました。親父に聞いてみるとナラの木ばかりが虫にやられて枯れているとのことでした。帰ってきてたまたま読んだ雑誌に「ナラ枯れ」として載っていました。カシノナガキクイムシという小さな甲虫が、ナラ類の幹にカビの一種を運び込んで木を枯らしてしまふ。高齢の太いものほど虫

がたくさんアタックするので枯れやすいとされ樹齢五十年くらいのものがたくさんやられていくそうです。昔のように新炭や椎茸の原木などとして伐り出して利用することがなくなつたのも一つの要因とすることでした。山に人の手が入らなくなるとそんなことも起こるのかと考えさせられました。

山仕事を学びたいと考えたのは春までいた職場で山の雑木林全体に手を入れたいと思つたことがきっかけでした。特に砂漠化の改善と樹木の整理です。常緑樹林をどの程度間伐(どの木を切りどの木を残す)して日差しがどの程度差し込めば林床を改善できるのか、雑木林をどの程度残すか、樹種はどうするか、この作業をするための基準や基本を知りたい。そんなことを考えていました。

「山造り承ります」島崎先生のの本を目にしたのはその頃でした。タイトルそのものにとても惹かれました。読んでみて本の内容は言つに及ばず、とにかくこの森林塾に行つて勉強してみたいと思ひました。さつそく妻の了解を取り、問い合わせをして予定を確認し諸手続きを済ませました。さあ、いざ森林塾へ。早いもので、通年コースの予定の半ばを迎えました。今

回学んでいることをまず仕事に生かしたかつたのですが春の異動でしばらく先になつてしまいました。いつかまた実践できるところに異動したいと思つています。今後を考えたい時には、仕事でもプライベートでもずつと樹木に関わつて行きたいですね。そして出来れば退職後は移住して自然豊かな環境で生活しながら・・・なんて夢を描いています。どんな形になるのかはまだ何とも言えませんが樹木に関わることは山、川、海のいろんな問題に関わつて行くことにも繋がるかなと思ひます。夢は大きくいろいろ活動等に参加したりしながらじっくり探つていきたいです。

森林塾のスタッフの皆さん、一緒に学ぶ塾生の皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

またたびは、落葉のつる性木本で、日本全国どこでも見られる樹木です。花の時期になると葉が白く変化するのが特徴です。遠目から見ると、まるで白い花が滝が流れているみたいに咲いているように見えます。花が咲く時期は六月から七月で、梅花う



つぎに似た白い花が咲きます。このまたたびの花は、とても良い香りがします。この他に、深山またたびがあり、こちらの葉は白から淡い桃色や濃い桃色になり、こちらも花と見まごうくらい、とても美しいです。私が初めて出会つたのは、深山またたびのほうで、その頃は名前さえ知らない頃でした。あまりにもきれいで、樹の前でぼーっと見とれてしまったのを覚えています。それからこの樹は何の樹?と知りたくて、葉を一枚いただいたり、図鑑で調べたのを思い出します。深山またたびの方は、またたびより少し標高の高い所に生育するようです。深山またたびの花も白い花が咲きますが、こちらの花の香りはまだどんな香りなのか実際に嗅いだことはないのかわかりません。いずれの葉も、夏の盛りを過ぎると、またたびは白から

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL http://www.koanet.co.jp



不安定な天候が続いています。田んぼや畑も心配ですが、きのこも心配?

「あわりに」

だんだんくすんだ黄緑色へと褪せていきます。深山またたびは、くすんだ赤色になっていきます。昨夏に友人とまたたびの前で葉の観察をしていたら、山で、しよいこを背負つた初老のおじさんと出会い、そのおじさんがまたたびの葉がなぜ白くなるか知っているかい?と質問されました。その方は、女性がお化粧するのと同じなんだよ。と言われました。なるほど。花を咲かせる時期や、色、形、香りなど様々に己を駆使して植物は子孫を残すため、あの手この手の策略をしたたかに練っているみたいです。人間の考えなんて及びもしないような凄じいこと、自然の中では当たり前にあるんだなあと、ただ、ただ関心するばかりです。「鶯」